保健体育科教育法Ⅳ

科目ナンバリング　ESS-316
教職　　選択　　2単位

高田　彬成

1. 授業の概要（ねらい）

高等学校健体育科教員としての基礎的・基本的な指導力を身に付けるために、保健体育科の指導案作成の基盤となる「教材観」や「指導観」について学ぶとともに、領域別・学年別の目標や内容、中学校から高等学校への接続、高等学校から生涯スポーツへの継続等を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項について学ぶ。また、学習指導案の作成・発表、および、模擬授業や事後研究協議を実際に行う。

2. 授業の到達目標

（1）高等学校の保健体育における各運動領域・種目等の「運動の特性」（機能的特性・効果的特性・構造的特性）や「成り立ち」などについて理解する。
（2）各運動領域・学年別の目標・内容に応じ、中学校との接続・一貫性を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項や教材開発の視点について理解する。
（3）学習指導案（単元計画・本時案等）の作成・発表、発表に対する相互評価活動、模擬授業・事後研究協議を通して、実践的な指導力を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

授業内課題（35%）、指導案作成・発表（30%）、テスト（35%）で、総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書
文部科学省　『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編・体育編』　東山書房
和唐正勝他　高等学校検定教科書『現代高等保健体育』　大修館書店

5. 準備学修の内容

（1）学習指導要領解説や授業配付レジュメを読み込み、用語や内容を理解するなど、常に予習・復習をする。
（2）文部科学省（スポーツ庁）や都道府県の体育・スポーツ情報、体育・スポーツニュースに関心をもち、自ら専門的知識を積極的に入手し、理解する。
（3）教育実習に備えて、指導案の例を参考に全ての領域で指導案を自主的に作成する。
（4）教育実習での指導場面を想定するなど、教材開発関連資料を積極的に収集し、整理する。

6. その他履修上の注意事項

（1）春期開設の「保健体育科教育法Ⅲ」と併せて履修する。
（2）教職を目指す学生に相応しい態度で受講し、自立して学習する。
（3）本気でよき保健体育科教員を目指し、常に教育や学校現場を想定して積極的に学習する。

7. 授業内容

【第1回】　オリエンテーション（シラバス概要、成績評価方法等の説明）、教材研究（指導案作成）対象領域の選択
【第2回】　授業づくりと学習過程（これまでとこれから）、「体つくり運動」の指導案例と指導案作成作業
【第3回】　「体つくり運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第4回】　「器械運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第5回】　「陸上競技」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第6回】　「水泳」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第7回】　「球技（ゴール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第8回】　「球技（ネット型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第9回】　「球技（ベースボール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第10回】　「武道（柔道、剣道、その他の武道）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第11回】　「ダンス」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第12回】　「体育理論」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第13回】　「科目保健」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）
【第14回】　高等学校保健体育科におけるよい授業の条件についての整理
【第15回】　まとめ（教材研究の視点等）と指導案・課題レポートの提出